



1粒のお米から5~7本の茎が育つ。1合のお米を収穫するにはおおよそ100本の稲が必要。

では分からないことですね。

工藤 実際やってみると、すごい苦労をしているのが分かりました。苗を枯らしてしまうとダメになっちゃうし、草取りとか、本当に手をかけないとちやんとしたお米が出来ないし、食べられなくなると思いました。

脇島 お米作りは、一つ一つの作業が大事で、人が世話をしてあげないとダメだから難しいと思いました。

千葉 農家のかたがたは、これ売って生計を立てているのだから、きちんとしたおいしいお米を作らなければならぬ。だからこそ手を抜けなかった訳ですね。石井さんは、自分自身が勉強になったことがありますか。

石井 私はあまり食べるほうではないので、いつも残していたんですけれど、いざ自分で一からつくってみるとすごくもったいないことをしているんだなと…(笑)。野菜にしても、果物にしても、すべての食べ物に手がかかっているんだなと思ったら、簡単に残しちゃいけないと改めて思いました。

かかしを作つて 田んぼを守るのも お米作りの一環

千葉 そういえば、かかしも作ったんだね。

工藤 すごく難しかったです。土台になる竹の棒が長くて洋服を着せるのが大変でした。わらを詰めても詰めてもズボンの裾から全部出てきちゃいました。

脇島 竹の棒をワイヤーで十字になるように固定するんだけど、竹がすごく長かったから、組み合わせる時が難しかったです。

千葉 かかしはなんのために作るのかな。
脇島 すずめよけをするために作るんです。

千葉 すずめよけになつたと思いますか。
脇島 はい。まあ、あと鳥よけのネットもあつたんで大丈夫だと思つたんで大丈夫だと思つたんです。

(全員大爆笑)

大澤 既に稲に花が咲いているので、ネットが引つかかると穂が取れてしまいます。さわらないように張るのは、大勢の人の協力がないと上手にいかないですね。また、たるんで張ってしまうと、すずめはお利口ですから、たるんだ所にとまつて、

中を突つつくんです。

自然と関わり 工夫する心を学習

千葉 大澤さんや古川さんが、逆に子どもたちから学んだことはありますか。
大澤 子どもたちは繰り返し繰り返し単純作業を、とても熱心にやるんですよ。

古川 昨年も今年も、自分で積極的に来てくれてとても熱心なんです。本当に驚いています。

千葉 お米作りは、たくさんの方が協力して出来上がります。今日の収穫も小さい子どもから大人の人まで大勢が協力しました。その点はどうですか。
脇島 ネットを張ったときとか、みんな



夏に作ったかかしも稲刈りを見守る。



慣れないワラで稲を束ねるのは一苦労。ワラは水に漬け一昼夜おくと軟らかくなって束ねやすくなる。

なのタイミングを合わせるのが難しかったけれど、一人じゃ出来ないことをみんなやればできるんだなと思いついた。

工藤 お米作りは、やはり協力が大事だと思えました。

千葉 お米作りを通して、子どもたちに学んで欲しかったことはなんでしょう。

大澤 なんでもやり始めたことは、最後までやり遂げるといことです。かかし作りでも、材料だけを用意して、工夫してやりなさいって…。つるつるした竹と竹を縛るにはどうしたらいいだろう、と自分たちで考え工夫をして学んでいく、そういう経験が大切だと思えます。

古川 おいしく、安全なお米を作るには水が命です。ですから、いかにこの自然を残していくか。そしてお米そのものについては、原点からお米作りを学んだので、一粒たりとも無駄に出来ないということを学習してくれたと思えます。

千葉 おっしゃる通りですね。自然に関心を持ち、お米作りを通して、食べ物のもので大切さや、考え工夫をする心を学んで欲しいと思います。今日はどうもありがとうございました。